

教材名

2

【東書】防災ボスターを作ろう
【光村】日本文化を発信しよう

組

番

氏名

岩田さんの学級では、生活の中で気になったことについて調べています。岩田さんは、プラスチックごみの問題について調べ、ごみを減らすための行動について学級の友達に提案することにしました。次は、岩田さんが書いている文章の【下書き①】と【下書き②】です。これらをよく読んで、あとの問い合わせに答えましょう。

【下書き①】

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」アート

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジ、ぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができます。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くくなえいきょうをあたえていることにアヒジョウにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されてなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

■ みんなで減らそう プラスチックごみ

わたしは、便利だからといってプラスチックを当たり前に使うという考えをアラため、プラスチックごみを減らすためにできることをしたいと思いました。そこで、わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」を提案します。3Rとは、ごみそのものを減らすリデュース (Reduce)、くり返し使うリユース (Reuse)、ごみを資げんに変え、再び利用するリサイクル (Recycle)のことです。

わたしたち一人一人の力はとても小さいかもしれません。しかし、その力が積み重なれば大きなものになります。

【A】大切なことは、行動することが大切だと思います。

【下書き②】

■ やってみよう プラスチックの3R

家人といっしょに、まずは1週間、プラスチックごみを減らすことに取り組んでみませんか。実行できたら□の中に印を入れ、どのくらい実行できているのかをウタしかめましょう。他にも具体的な行動が見つかったら、書き加えて実行してみましょう。

プラスチックの3R週間 チャレンジ表

3R	具体的な行動
減らそう	<input type="checkbox"/> バッグを持参し、レジ、ぶくろをもらわない <input type="checkbox"/> ふたつき容器を使い、ラップの使用を減らす <input type="checkbox"/> コップから飲み、ストローを使わない <input type="checkbox"/> 水とうを持ち、ペットボトルを買う回数を減らす <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
くり返し使おう	<input type="checkbox"/> シャンプーはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う <input type="checkbox"/> 液体石けんはつめかえ用を買い、容器をくり返し使う <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
リユース(Reuse)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
資げんに変えよう	<input type="checkbox"/> ペットボトルをあらい、せん用の場所にする <input type="checkbox"/> 食品用のトレイをあらい、せん用の場所にする <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
リサイクル(Recycle)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

- 3 Rの中でもとにして、学級のみんなが取り組んだことを紹介するため。
3 Rを家族で分担し、自分の役割を明確にし、自分にできることを考え実行してもらうため。

岩田さんは、どのような目的で【下書き①】に続けて【下書き②】の「プラスチックの3R週間」を書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましょう。

教材名

【東書】防災ボスターを作ろう
【光村】日本文化を発信しよう

組

番

氏名

1 高橋さんの学級では、生活の中で気になつたことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている【報告する文章】です。これをよく読んで、あのの問い合わせに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

高橋 めぐみ

はじめに
先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなつていて、こまつてしましました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなつっていました。わたしは、公衆電話の数が減つて、いるのではないかと思つた。町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが【資料1】です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減つて、いることが分かりました。

そこで、公衆電話は、わたしたちにどつて必要がなくなつてしまつたのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のアтайしょとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが【資料2】です。

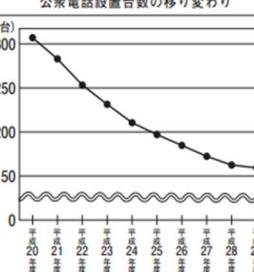
「けいたい電話をわざったときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときには必要とされているといふことが分かりました。

(2) 公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわざったときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がどこない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

(3) 公衆電話が設置されている場所



3 調査の結果をもとに考えたこと
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなつてしまつたわけではないと考えました。なぜなら、人が集まる場所にあるといふことが分かりました。

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとも考えました。今回の見つけたところの、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが【資料3】です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの友達に伝え、公衆電話について「わんしん」をもつてもらいたいと思います。

(資料3) 公衆電話の設置場所を示した地図



- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
2 内容ごとに分類して示し、大まかな持ちようを伝えるため。
3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。

- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

(資料2) :



(資料3) :



正答率: 71.3%

